

チャイナ・マーケット・インサイト

CHINA MARKET INSIGHT

中国の市場・業界・商習慣を徹底調査&研究

巻頭特集

新エネルギー車が増勢、 世界最大の自動車市場

中国自動車産業の発展状況とトレンド

コネクテッドカーが市場の主役に

中国発の「つながる車」とは?

業界研究

(1) ネット配車

最新技術で生活が便利に

中国ならではの発展を遂げる「配車」サービス

(2) カーシェアリング

自動車は「保有」から「共有」へ

世界最大のカーシェアリング市場

トレンドウォッチ

(1) 自動運転

ネット系企業が主導、未来の運転技術

各地で自動運転テストが進行中

(2) 地図アプリ

自動運転を支える縁の下の力持ち

地図アプリのグレードアップに各社注力

中国コンビニ最前線レポート

店舗数は2桁成長、大都市はほぼ飽和し

企業間競争が激化

2017年中国都市部コンビニエンスストア発展指数

都市別マーケティングレポート
茶館と網紅のマジック②
網紅店のサービスは「いいね!」の素の提供

CHINA MARKET INSIGHT



2	巻頭特集(1)	新エネルギー車が増勢、 世界最大の自動車市場 中国自動車産業の発展状況とトレンド
	巻頭特集(2)	コネクテッドカーが市場の主役に 中国発の「つながる車」とは?
28	業界研究	(1)自動運転 ネット系企業が主導、未来の運転技術 各地で自動運転テストが進行中 (2)地図アプリ 自動運転を支える縁の下の力持ち 地図アプリのグレードアップに各社注力
36	トレンド・ウォッチ	(1)ネット配車 最新技術で生活が便利に 中国ならではの発展を遂げる「配車」サービス (2)カーシェアリング 自動車は「保有」から「共有」へ 世界最大のカーシェアリング市場
44	小売・流通現場	中国コンビニ最前線レポート 店舗数は2桁成長、大都市はほぼ飽和し 企業間競争が激化 2017年中国都市部コンビニエンスストア発展指数
46	都市別調査	都市別マーケティングレポート 茶館と網紅のマジック ② 網紅店のサービスは「いいね!」の素の提供
48	編集後記	

巻頭特集(1)

新エネルギー車が増勢、 世界最大の自動車市場

中国自動車産業の発展状況とトレンド

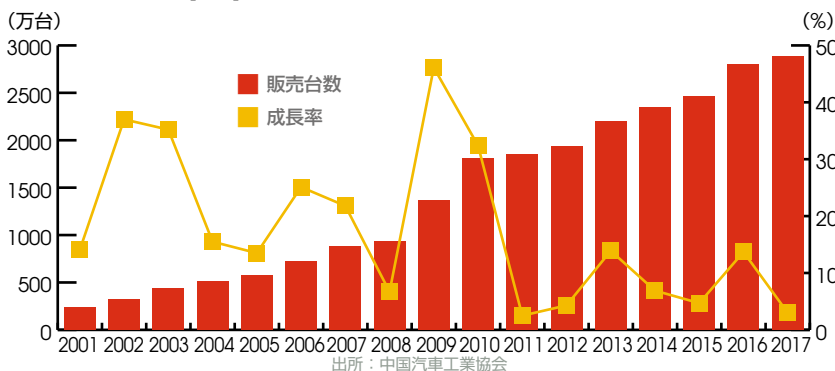
世界最大の自動車市場に躍り出た中国。頭打ちの傾向がやや見られるものの、SUVや新エネルギー車などが伸びており、市場の成熟度は高まっている。世界市場でも著名な電池メーカーが注目されるなど、新たなキープレーヤーが続々登場している。中国の自動車産業のキーワードは電気自動車(EV)などを中心とする新エネルギー車と、インターネットとの接続で様々なサービスや付加価値をもたらすコネクテッドカーだ。各社が世界最大の自動車市場でのしを削り、次世代技術を続々と投入している。

世界一の2900万台市場

中国汽車工業協会が公表した統計データによると、2017年の中国の自動車生産及び販売台数はそれぞれ2901.5万台と2887.9万台で、9年連続で世界一となっている。

(図1..2001~17年中国自動車販売台数及び成長率)

【図1】2001~17年中国自動車販売台数及び成長率





中国の自動車生産及び販売台数は9年連続で世界一



中国で一番盛り上がった自動車業界のイベント「上海国際車展」

うち、乗用車の販売台数は前年比1.4%増の2471.83万台だった。成長率は前年比で、13.53%減少している。

車種で見ると、セダンの販売台数は1184.80万台で、前年比2.48%減。SUVは1025.27万台で、前年比13.32%増。MPV（ミニバン）は207.07万台で、前年比17.05%減。ワンボックスカーは54.7万台で、前年比19.97%減だった。

以上4タイプのうち、従来型のガソリン車は、SUVが2桁の伸びを示しているのを除き、その他

は全て減少傾向にある。

（表1…2017年中国自動車生産及び販売状況）

成長顕著な中国地場系、健闘する日系メーカー

中国自動車工業協会の統計によると、2017年の中国の民族（地場）系自動車メーカーの販売台数は前年比3.02%増の1084.67万台で、自動車の販売台数全体の43.88%と半数近くを占めた。

ドイツ系、日系、アメリカ系、韓国系、フランス系自動車メーカー

【表1】2017年中国自動車生産及び販売状況

	1～12月累計 生産台数(万台)	前年比成長率%	1～12月累計 販売台数(万台)	前年比成長率%
自動車	2901.5	3.2%	2887.9	3.0%
乗用車	2480.7	1.6%	2471.8	1.4%
セダン	1193.8	-1.4%	1184.8	-2.5%
MPV	205.2	-17.6%	207.1	-17.1%
SUV	1028.7	12.4%	1025.3	13.3%
ワンボックス	53.0	-20.4%	54.7	-20.0%
商用車	420.9	13.8%	416.1	14.0%
旅客車	52.6	-3.8%	52.7	-3.0%
貨物車	368.3	16.9%	363.3	16.9%

出所:中国自動車工業協会



中国でSUVは高い人気を誇る



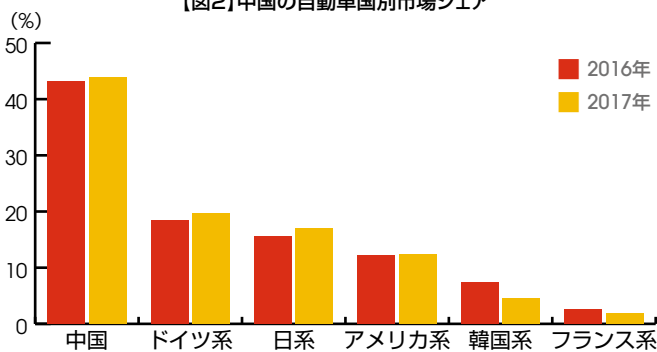
中国の地場系自動車メーカーの販売台数は全体の半数近くを占めた

の販売台数はそれぞれ484・97万台、420・48万台、303・95万台、114・45万台、45・58万台で、市場シェアは順に19・62%、17・01%、12・30%、4・63%、1・84%だった。

前年比で見ると、韓国系とフランス系自動車メーカーの販売台数が大きく落ち込み、日系がシェアを広げている。

(図2…中国の自動車国別市場シェア)

【図2】中国の自動車国別市場シェア



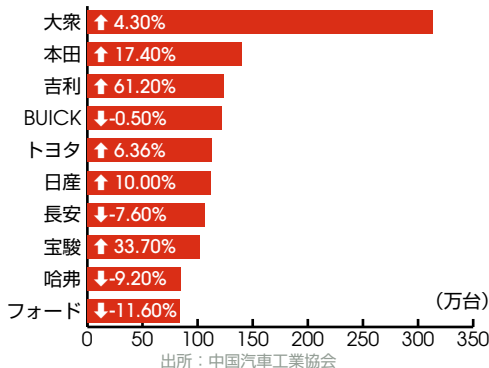
出所：中国汽车工业协会

メーカー別で見ると、独フォルクスワーゲン(大衆)が絶対的首位に立っている。ホンダがこれに続き、中国民族系の吉利(GEELY)が大きく成長して第3位となった。日系のトヨタと日産はそれぞれ第5位と第6位にランクインしている。

(図3…2017年自動車メーカー別販売台数ランキング)

車種別で見ると、セダンのトップ3は独フォルクスワーゲン「LAVIDA(朗逸)」、米ビュイック「EXCELLE(英朗)」,そして日産「SYLPHY(軒逸)」。SUVの

【図3】2017年自動車メーカー別販売台数ランキング



出所：中国汽车工业协会



メーカー別で見ると、独フォルクスワーゲン(大衆)が絶対的首位に立っている

トップ3は民族系が占め、長城「Haval(哈弗)H6」、上汽通用五菱の「宝骏510」、広州汽車(广汽)の「传祺GS4」の順となった。MPVでは五菱宏光、宝骏730、ビュイックGL8がトップ3を占めた。

(表2…2017年自動車車種別売上ランキング)

根強い輸入車人気

中国汽车工业协会の統計データによると、2017年の自動車輸出台数は89・1万台で、前年比25・8%増と高い伸びを示した。過去4年間は減少傾向が続いていたが、17年に入り増加へと転じている。

うち、乗用車の輸出は63・9万台で前年比34%増、商用車は25・2万台で前年比8・9%減だった。一方、中国税関の統計によると、同年1～11月期の自動車の累計輸入台数は114万台で、前年比19%増だったという。

(図4…2008～17年自動車の輸出台数)



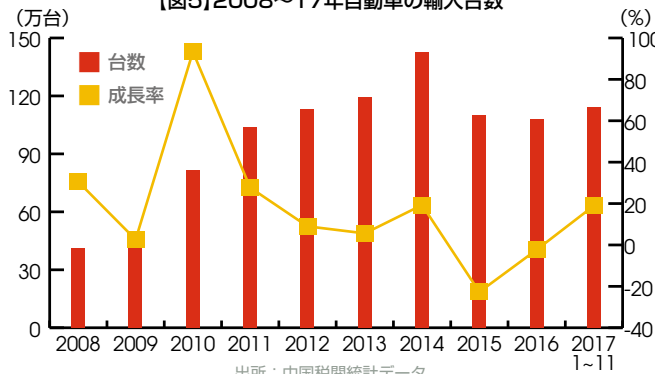
広州汽車(广汽)の「传祺GS4」は人気SUVモデル

【表2】2017年自動車車種別売上ランキング

順位	セダン		SUV		MPV	
	車種	販売台数	車種	販売台数	車種	販売台数
1	朗逸	51.27	哈弗H6	50.64	五菱宏光	53.7
	VW Lavida		Greatwall Haval H6		SGMW CHEVROLET	
2	英朗	41.7	宝骏510	36.39	宝骏730	27.08
	Buick Excelle		SGMW Baojun		SGMW Baojun 730	
3	軒逸	40.59	传祺GS4	33.73	别克GL8	14.51
	Nissan Sylphy		GAC Trumpchi		Buick GL8	
4	卡罗拉	33.35	途觀	33.24	欧諾	8.65
	Toyota Corolla		VW Tiguan		Changan Honor	
5	速騰	33.27	博越	28.69	菱智	7.92
	VW Sagitar		Geely Emgrand		Fengxing Lingzhi	
6	捷達	32.6	CS75	24.01	幻速H3	7.26
	VW Jetta		Changan CS75		BAIC HYOSOW	
7	福睿斯	29.18	昂科威	23.92	欧尚	6.67
	Ford Escort		Buick Envision		Changan Auchan	
8	桑塔納	28.91	荣威RX5	23.74	风光330	5.42
	VW Santana		SAIC Roewe		Dongfeng Fengguang	
9	帝豪	26.44	哈弗H2	21.51	傑德	4.27
	Geely EMGRAND		Greatwall Haval H2		Honda Jade	
10	宝来	25.04	奇駿	18.47	欧尚A800	4.1
	VW Bora		Nissan X-Trail		Changan Auchan A800	
合計	342.34		294.35		139.57	
シェア	28.89%		28.71%		67.40%	

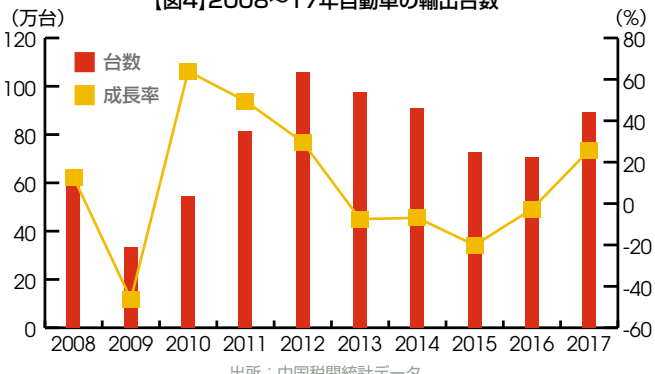
出所:中国汽車工業協会

【図5】2008～17年自動車の輸入台数



出所:中国税関統計データ

【図4】2008～17年自動車の輸出台数



出所:中国税関統計データ



中国の新エネルギー車(NEV)市場が急成長

（図6…中国新エネルギー車の世界シェア推移）

中国の政策と強力な産業育成サポートを背景に、中国の新エネルギー車（NEV）市場が急成長。特に2013年以降の伸びが顕著で、世界市場のシェア（販売台数ベース）も13年の6.81%から、17年には44.39%にまで伸びている。中国はすでにアメリカを追い越し、世界最大の新しいエネルギー車市場となっている。

右肩上がりの
新エネルギー車市場

（図5…2008～17年自動車の輸入台数）



コネクテッドカー(智能互聯網自動車)は中国の重点發展領域

巻頭特集(2)

コネクテッドカーが 市場の主役に

中国発の「つながる車」とは?

中国の自動車市場で大きな話題になっているのは「コネクテッドカー」だ。いわゆる「つながる車」で、ネットと接続して様々な機能が使え、ドライブレコーダーを快適なものにできる。その中心は、ネットやITの大手だ。各社が独自のシステムを続々と投入している。

政策の後押しを受ける コネクテッドカー

コネクテッドカー産業の發展を重視する中国政府。2015年に公布した「中国製造2025」でも、コネクテッドカーは十大重点發展領域の一つに組み込まれている。

17年に工信部、國家發改委、科技部が共同で公布した「自動車産業中長期發展計畫」で、20年までにDA(Driver Assistance: ドライバアシスタント)、PA(Partial Automation: 部分的自動運転)、CA(Conditional Automation:

条件付き自動運転)システムの新車への搭載率を50%に、またコネクテッドドライブサポートシステムの搭載率も10%とし、スマート交通都市建設の要求を満たすことを目標とした。

25年には自動車DA、PA、CAの新車への搭載率を80%、なかでもPAとCAクラスの新車搭載率を25%にするなど、高度かつ完全な自動運転車の市場投入を開始する。

さらに、政府は20の部門で構成される専門のテレマティクス産業發展委員會を設立。コネクテッドカー

のキーテクノロジー研究開発と応用をサポートしていく計画だ。

世界コンサルティング会社大手のマッキンゼーは、2020年の中国の新車販売台数は2200万台に達すると予測している。「自動車産業中長期発展計画」の目標にもあるように、新車販売の1100万台に占める程度、自動運転機能の搭載が実現すれば、スマート交通都市建設の要求を完全に満たすだけでなく、自動車産業全体の変革をももたらすだろう。

実際に、コネクテッドカーのテストモデルが全国各地に設置されつつある。工信部が共同で推進する国家級のコネクテッドカー及び自動運転モデルが上海、杭州、北京、重慶、吉林、武漢、無錫の7カ所に設置されたほか、一部の省市が各政府機関と提携し、資本提携などの形



中国では2025年にL4、L5の自動運転機能を新車への搭載率を80%にする

態でテスト区を創設する動きも出ている。

政府のみならず、各業界でもコネクテッドカーを推進する動きが活発になりつつある。特に、中国インターネット界の三大巨頭「BAT」である百度(バイドゥ)、アリババ、騰訊(テンセント)の3社も、それぞれにコネクテッドカー領域に参入し、中国内外から多くの注目を集めている。



騰訊(テンセント)もコネクテッドカー分野に参入

百度の独自システムとは

AI(人工知能)の領域で、中国で先導的な地位を占める百度(バイドゥ)は、2017年11月に「Apollo(アポロ)小度車載システム」を発表した。これはバイドゥが自社開発したDuerOSシステムを中

心とした人と車とを結ぶAIインタラクティブ(双方向)システムだ。

スマート音声アシスタント、顔認証、疲労チェック、AR(Augmented Reality)ナビゲーションシステム、HMI(ヒューマンマシン・インタフェース)、車と家のインタラクティブシステム、スマートセキュリティ管理という7大機能を搭載している。

バイドゥ世界大会の公開デモンストラーションで、顔認証によるアポロ小度車載システムへのログイン、顔認証によるスマートエントリー、身分認証による盗難防止機能が実演された。



百度の車載システム「Apollo」



Apolloシステムは顔認証、音声識別、疲労度のチェックなどの機能を持つ



Apollo车联网产品体系

车联网五大核心能力



「蔚来」自動車は自動運転の公道テストを実施している

業界研究(1) 自動運転

ネット系企業が主導、 未来の運転技術

各地で自動運転テストが進行中

自動運転技術が中国で進化を遂げようとしている。ネット系企業と自動車メーカーがタッグを組み、各地で試験走行が展開中だ。

新しモノ好きの中国人

2017年末に北京で中国初の自動運転車走行テスト規定が公布されたのを皮切りに、これまでに上海、重慶、深圳、広州、保定（河北）、長沙（湖南）、長春（吉林）、平潭（福建）を加えた9都市で自動運転車走行テスト規定が制定されている。

これらの都市では、自動車メーカーに対して、公道での試験走行専用のナンバープレートを交付。現在、百度（バイドゥ）や騰訊（ Tencent）のネット系、上海汽車、吉利汽車、東風汽車、第一汽車、長安汽車、広州汽車、北汽福田といった自動車メーカーのほか、蔚来汽

車（NIO）や小馬智行（Pony. 馬）など新興の電気・自動運転自動車メーカーを含め、各社が先を争って公道テストを実施している。

中国で自動運転技術を研究開発する企業のうち、完成車メーカー以外で最も多いのは、ADAS（先進運転支援システム）や自動運転ソリューション企業で、全体の21%を占めている。レーザーセンサーや車載パーツのメーカーも比較的多く、それぞれ13.9%、12.7%の割合となっている。（※ADASとは、自動車にカメラやセンサーなどを組み合わせて搭載し、周囲の状況を認識して、ぶつからないように自動的に衝突



中国消費者は新しいハイテク製品に対する受容度が高い

を回避するシステムのこと。)

中国の自動運転業界のサプライチェーンは比較的バランスよく分布されているとされ、ADAS市場規模は20年に約220億人民元に達するという予測もある。

地域別で見ると、中国の自動運転関連メーカーは北京市、広東省、上海市、浙江省に集中しており、それぞれ全体の34%、23%、15%、8%を占めている。

独コンサルティング大手のローランドベルガーによる中国の自動運転の発展状況に関する調査レポートによると、20年までに中国各都市の特定エリアの公道で自動

運転のテスト走行が行われるという。また一部の高速道路では、人が運転に原則関わらない「レベル3」の自動運転車の走行が許可されると見込んでいる。

米コンサルティング大手のマッキンゼーの最新報告によれば、中国は今後、世界最大の自動運転市場に成長。30年には全乗客の走行距離(PKM T)に占める自動運転の割合が約13%に達すると予想している。

自動運転車両の数は約800万台に達し、自動運転対応の新車販売や関連の旅行(外出)サービスによる収入の合計は5000億米ドルにも見込んでいる。

また、中国の自動運転技術はアメリカに比べて、後発の優位性があるだけでなく、中間層の広がりとともに、中国の消費者が新しいテクノロジーや製品に対する受容度が高いことが今後の発展にとって有利に働くとしている。自動運転に対する関心も高く、実際に中国消費者の49%が全自動運転を「非常に重要」と回答したアンケート結果もある。ちなみに、この数字はドイツやアメリカでは16%に過ぎない。

中国の消費者にとって自動

運転車を購入するために余計に支払ってもいいと思う金額は4600米ドルだが、アメリカとドイツではそれぞれ3900米ドル、2900米ドルにとどまっているようだ。

「アポロ計画」で業界をリードする百度

中国ネット検索最大手の百度(バイドゥ)は、中国で最も早く自動運転技術の開発に着手した企業だ。

2017年4月に自動運転の開発連合の「アポロ計画」を発表。50以上の自動車及び自動運転分野の提携パートナー企業に対して、自動運転プラットフォーム「Apollo Pilot(アポロパイロット



百度は自動運転に関する「アポロ計画」を発表

ト)をオープンソース化すると宣言した。

同プラットフォームは、ドライブレコーダーやワイヤ技術を利用した車両、GPS機器・カメラ・ライダー(LIDAR)などのハードウェア、地図の制御エンジンなどのソフトウェア、そしてクラウドサービスを対象とした4つの構成になっている。

ディープラーニング(深層学習)によるAI(人工知能)をより高度化し、システムを自動的にアップグレードするのも特徴だ。中国の特殊な道路状況においても、自動運転走行を高度に実現させることを目標としている。

提携パートナー数はすでに



L4級の自動運転短距離循環バス「アポロン(阿波龍)」は18年9月から各地で運行を開始



高德地図の高精度データ収集車

業界研究(2) 地図アプリ

自動運転を支える

縁の下の力持ち

地図アプリのグレードアップに各社注力

自動運転に欠かせない要素の一つが地図アプリだ。データ収集とディープラーニング技術を駆使し、ただのカーナビから進化を遂げようとしている。

BATが地図アプリに 揃い踏み

自動運転の発展と普及に欠かすことのできない必須条件の一つが、高精度デジタル地図だ。センチメートル(c m)単位の位置精度を備えたデジタル地図システムの構築には、新しく開設された道路や工事による迂回道路などのデータが瞬時にアップデートされるといった精密度や正確性が特に重要となってくる。

現在、中国国内でカーナビゲーション用デジタル地図のライセンスを有する企業は、四維図新、高德地図、長地万方、凱立德、易圖通、城際高科、国家基礎地理信

息中心、科菱航睿、光庭信息、浙江省第一測繪院、江蘇省基礎地理信息中心、靈圖、立德空間信息、滴圖科技の14社だ。

そのうち、百度(バイドゥ)が2013年に長地万方を買収。アリババも14年に高德地図を買収した。騰訊(テンセント)も14年に四緯図新の株式11.28%を取得し、科菱航睿にも6000万米ドル出資している。

このように中国3大ネット企業「BAT」(※バイドゥ、アリババ、テンセント)の頭文字を取った呼称)が、買収や株式支配の方式で、デジタル地図分野への進出を果たしたことの意味合いは大きい。



高德と百度が2強

現在、中国政府は国家安全上の理由から、国内の自動運転車メーカーに対して提携先は上記14社の中国企業のうち1社から選ぶことを義務づけている。外資メーカーが自ら地図データを作成することは認められていない。

中国の高精度デジタル地図の分野で、高い競争力を誇り、お互

いにしのぎを削る2大企業が、アリババ傘下の「高德地図」と百度の「百度地図」だ。

高德地図は現時点で、中国の全長30万キロメートルを超える高速道路の高精度データの収集を完了している。

基本的な道路の形状やスロープの角度、曲がり角やカーブ、敷設設備、方向などのデータのほか、車線の種類や車道の幅、道中のランドマークやガードレール、樹木、道路脇の形状などのデータも含まれる。

高德地図の高精度地図の誤差は一般道路で7センチ以内、高速道路では5センチ以内に抑えられている。

同社は今後、全国30万キロメートルの高速道路の高精度及び一般精度のデジタル地図データを、クラウドだけでなく自動車に搭載された端末にも同時に保存させる。高精度地図データは四半期ごとに最新アップデート版をメーカーに送信し、更新していくという。

自動運転で求められる瞬時の判断や反応は、正確で精度の高い地図データが大前提となっている。ネットを介するクラウドだけでは、ネット環境が良くない場所などで望ましい自動運転走行が

実現できないケースも出てくるだろう。自動車の端末にもオフラインデータを保存させ、さらにそれが常に最新の情報にアップデートされている状況を作り出すことが今後の自動運転の発展にとって重要になってくる。

高德地図は、すでに米ゼネラル・モーターズ（GM）系のキャデラックや吉利汽車と商業化に関して提携。現在、国内で唯一、高精度デジタル地図の商業利用を実現させた企業となっている。ただ現時点では、自動車メーカーが集めたデータのフィードバックを得るといった相互のデータ共有は行っていないもようだ。

データ処理が最重要

「百度地図」を擁するは、データの収集から集積まで全て自社内で開発している。

特に高精度デジタル地図は、百度が提携パートナー企業と協働して推し進める自動運転開発連合の「アポロ計画」内の一つであ



高德はすでにキャデラックと提携、高精度地図の商業化を実現している

る「クラウドサービス」の核となるデータで、基本的に提携先企業が求めるニーズに基づいて各種データを収集している。

モデル識別、ディープラーニング（深層学習）、3D再構築、ポイントクラウド情報処理など世界トップレベルの技術を採用。データ自動処理化レベルは90%に達している。交通標識、道路標識・車



キャプション:配車サービスは中国人の生活に浸透

トレンド・ウォッチ(1) ネット配車

最新技術で生活が便利に 中国ならではの発展を遂げる「配車」サービス

中国は今や、スマホで何でもできる社会ではなく、スマホがないと何もできない社会。車の移動もその例に漏れない。車を呼ぶのも探すのもシェアするのも全てスマホアプリ上で完了してしまう。

拡大する配車サービス市場

中国では最近、上海や北京などの主要都市では、ネット配車アプリなしではタクシーやシェアライド車を探すことが困難になってきている。特にシェアライド車は、昨今流行りのシェアリングエコノミーの産物として最近世に出てきたばかりだが、中国ではすでに都市交通手段として広く定着。今やバス、タクシー、マイカーと並ぶ第4の選択肢に加わっている。

一部の都市では、ナンバープレートによる通行規制や高騰するマイカー維持コストを考慮すると、ネット配車を利用したほうが遥かに経済的ともいえる。

上海の場合、平均的な配車サービス1回の利用料は36元。一方、マ

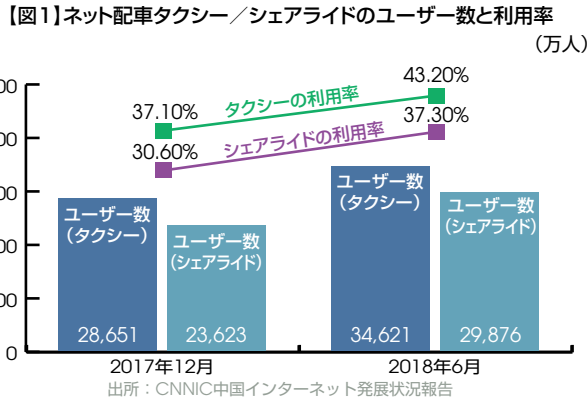
イカーを保有した場合の1年のコストは6万6910元で、換算すると配車サービスを毎日5回利用できる計算となる。低価格だけでなく、乗客と車両の間のアンバランスをピンポイントで解決することができるのもネット配車のメリットといえる。

中国互聯網絡信息中心(CNNIC)が公表した「2018年第42回中国インターネット発展状況報告」によると、2018年6月末時点で中国のネット配車タクシーのユーザー数は3.46億人。17年末に比べて20.8%増の5970万人増だったという。

ネット配車シェアライドのユーザー数も2.99億人で、同期比26.5%増の成長。利用率も30.

6%から37.3%に上昇している。このように、ネット配車サービスは完全に中国人の生活の一部となりつつある。

（図1）ネット配車タクシー／シェアライドのユーザー数と利用率



合法化と合従連衡

中国のネット配車サービスがスタートしたのは2010年のこと。当時最も早く運営を開始したのが「易到」だった。

12年にテンセント系「滴滴」とアリババ系「快的」が参入すると、激しい値引き競争と利用者だけで

なくドライバーに対するキャッシュバック合戦が展開され、ネット配車サービスが一気に普及した。

13年には40以上の配車アプリが市場参入。その後、高級セダンなどハイエンドの車種を利用したハイヤークラスの滴滴専車、神州専車、首汽約車、曹操専車がそれぞれ14年8月、15年1月、9月、12月に運営をスタート、市場は混戦期に突入した。

既存のタクシー業界と新鋭のシェアライド各社との間で色んな



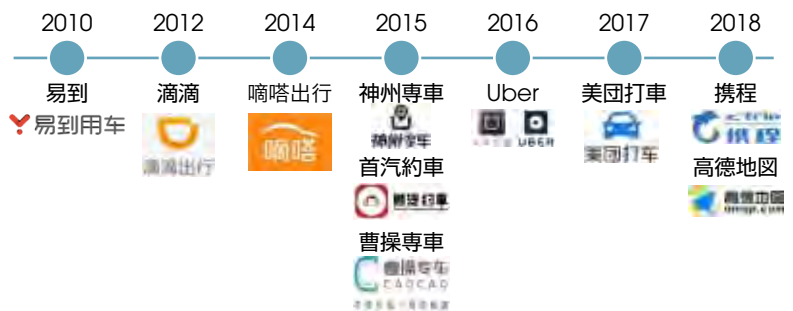
軌轢を生んだが、16年7月29日に交通運輸部が公布した「ネット配車タクシー経営サービス暫定試行弁法」により、シェアライド業は正式に合法化の運びとなった。滴滴出行、神州租車、首汽約車、曹操専車が相次いで「ネット配車タクシー経営許可証」を取得。それと共に市場の淘汰も始まった。

そうした中、滴滴が15年に「快的」を合併して誕生した「滴滴快的」が16年に米ウーバーの中国事業をそれぞれ買収。その後、「滴滴出行」に名を改めた同社による寡占化が一気に進み、17年の市場シェアは90%超、ユーザー数は5.5億人に達した。「滴滴」は今や中国でネット配車の「代名詞」ともなった。

（図2）ネット配車アプリの運営開始時期

そうした中、18年に入り、中国最大のグループ購入・出前サイトの「美团」やアリババ傘下の「高德

【図2】ネット配車アプリの運営開始時期





電気自動車はシェアカーの主流

トレンド・ウォッチ(2) カーシェアリング

自動車は「保有」から「共有」へ

世界最大のカーシェアリング市場

中国では政策の後押しを受けてカーシェアリング業界も盛り上がり始めている。車未保有の免許保有者も大きなターゲット。技術の進歩も市場拡大に貢献している。

上海の稼働規模は8000台

中国でカーシェアリングが始まったのは約7年前。しかし2017年6月時点で、中国のカーシェアリングの車両台数はすでに4万台に達し、その規模はアメリカやドイツの1・7万台をはるかに上回り世界第1位となった。

車両は電気自動車(EV)のシェアが9割以上に達しているが、これはドイツが10%、アメリカは1%に満たないのに比べて際立って高い普及率といえる。

17年下半年、中国のカーシェアリング市場はさらなる急成長を遂げた。

同済大学の新エネルギー車産業

化研究中心の調査によると、17年末までに中国の主要カーシェアリング運営企業30社が市場に投入した車両数は8・9万台に達し、それまでの6年間に投入された累計台数を上回った。

都市別で見ると、上海のEVカーシェアリングが8000台以上稼働しており、世界で最も規模が大きい都市となった。それまで首位だったフランス・パリ(4000台)を大きく上回る規模だ。

各社のビジネスモデルだが、中国のカーシェアリング運営企業の多くはB2C業務がメインで、B2Bも行っているのは一部のみ。車両の



EVCARD, Gofun出行と盼達は三大シェアカーブランド



経済的に有利な新エネルギー車

ピックアップと返車については、ほとんどの場合、ネットワーク内で異なる場所での返却は可能となっている。車両台数が1万台を超える企業は3社。EVCARDが2万7000台、GoFun出行と盼達用車がそれぞれ1万5000台の順となっている。

(表1…主なカーシェアリングプラットフォーム)

カーシェアリング各社が同分野に参入し始めた時期は、ちょうど中国の新エネルギー車の黎明期と重なっていた。

新エネルギー車は、中国の電気代が低く設定されていることから、充電やメンテナンスコストがガソリン車と比べて大幅に低く経済的。また一部の企業は、タイムリースを通じて自社の新エネルギー車を宣伝したいとも考えていた。

結果的に、新エネルギー車は中国のカーシェアリング市場で絶対的な主役の地位を占めることとなった。現在、独タイムラーの「car2go」と「途歌」がガソリン車を使用しているのを除き、同市場の9割以上が新エネルギー車となっている。






タイムラーのcar2goは市場では数少ない非電動シェアカー

多くの自動車メーカー（上海汽車、北京汽車、ダイムラー、大衆（VW）など）が、自社の新エネルギー車の販売と宣伝を目的として車両のタイムリース市場に参入した。タイムリースの車両台数に関する統計によると、現在、自動車メーカーをバックグラウンドに持つタイムリース企業は全体の77%を占めているという。

各社とも一線級（上海や北京など大都市）及び二線級都市（省都及び主要都市）を主戦場としているが、今後2年間でより

【表1】主なカーシェアリングプラットフォーム

企業	詳細
 <p>EVCARD</p>	<p>EVCARDは上海汽車（上汽）集団と上海国際汽車城の合併による環球車享傘下のブランド。電気自動車（EV）のタイムリースを主要業務としている。</p> <p>現在すでに中国国内の62都市で業務を展開。ネットワーク数は1万3000カ所に上る。</p> <p>運営車両台数は2万7000台。車種は荣威E50、奇瑞EQ、北汽EC180/EV160、海馬普力馬、衆泰E200、江淮iEV7、長安奔奔のほか、高級車種の荣威ERX5やBMW i3など。</p>
 <p>GoFun出行</p>	<p>GoFun出行は首汽（Shou Qi）傘下の新エネルギー車を使ったカーシェアリング企業。「分+km」で費用を計算。</p> <p>北京、上海、武漢、成都、南京などの主要都市のほか、西安、青島、昆明、桂林、三亜などの観光都市など、合計50都市以上でサービスを展開。</p>
 <p>盼達用車</p>	<p>盼達用車は2015年11月に運営をスタート。地場系自動車メーカーの力帆控股（Lifan）が戦略的投資した新エネルギー車のカーシェアリングプラットフォーム。</p> <p>大都市での車両の時間貸業務がメイン。これまでに開拓した市場は各地の工業園區、大型居住エリア、交通ハブ、観光名所、ショッピングモール、大学城（学園都市）などの通勤・通学ニーズの多いエリア。</p> <p>盼達用車は第三者企業の信用調査報告でデポジットを免除できる初のプロジェクトでもある。また現在、アリババ系スマホ決済のアリペイ（支付宝）など第三者決済アプリの「コードを読み込んで車を借りる」機能も提供。</p>



新疆ウイグル自治区の首府・ウルムチでも、地場系コンビニチェーンの「八点半」と「毎日毎夜」が熾烈な陣地争いを繰り広げている

中国コンビニ最前線レポート

店舗数は2桁成長、 大都市はほぼ飽和し 企業間競争が激化

2017年中国都市部 コンビニエンスストア発展指数

中国チェーン経営協会がここ5年間毎年統計公表している「中国都市部コンビニエンスストア発展指数」。各都市のチェーン化したコンビニ店の数とその伸び、24時間経営の割合や政府及び政策面でのサポートなどを総合的に指数化したものだ。

2017年の実績をもとに計算された指数が最も高かったトップ5都市は、長沙、深圳、太原、東莞、成都の順。このほかに、中国各都市のコンビニ発展状況には、以下のような傾向が見て取れると伝えている。

(二) 全国各都市のコンビニ数の増加は二桁の安定的な成長を保持



ウルムチの街角でよく見かける「毎日毎夜」コンビニ店

17年に、中国小売業はアリババが提唱する「新しい小売（ニューリテール）」というオムニチャネルとビッグデータを融合した新しい小売流通モデルの構築に大きく舵を切った。コンビニ業界も例外ではなく、無人レジや店舗など新しいコンセプトや技術を積極的に導入。新たな資本投下も活性化し、安定的に高い成長を保った。

また、コンビニの新規店舗数の増加率が前年比10%を超えた都市は、調査対象となった都市全体

「いいね！」の素の提供

網紅店のサービスは

に共通する取り組みでもある。店内のインテリアやちょっとしたコーナー、お洒落なテーブルや食器なども、視覚的魅力として拡散対象となるからだ。消費者は自分のセンスで撮影したお洒落な写真をSNS上にシェアし、「いいね！」を押しもらうことに大きな喜びを感じる。その際に重視されるのは、ブランドが打ち出すメッセージが自らの個性とマッチするか否か——つまりアイデンティティだ。

網紅店はこの心理を巧みに捉えた店づくりをおこなっている。

網紅店たちのルックス

例えば、元中国マクドナルドのCOO 廖欽氏が15年に上海で創業した「inWE 因味茶」は、お洒落な店内に科学実験室や工場を思わせる設備を巧みに取り入れ、“科技感”を個性に掲げている。

その象徴といえるのが半自動のティーメーカー Steampunk。科学実験機器に似た透明なシリンダー内で、茶葉からの浸出、沸騰、濾過までの工程を約90秒でこなす。振動とともに蒸気を吹き出す様子といい、茶の人文的なイメージを覆す演出は、90後から大きな人気を集めている。壁に掲げられた、工場設備のような金属製の飲用水濾過シリンダーも、店内空間に独特のアクセントを添えている。

特筆に値するのは、店内のさまざまな家具やグッズがネット購入できること。家具にはQRコード付きの値札が貼られており、店舗のサイトから直接注文ができる。ビジュアルを売る網紅店の、ある種の到達点といえよう。各店舗の月間売上高は10～60万円で、ネット販売も伸びつづけている。

一方、深圳発の「奈雪の茶」は、「良いお茶にはヨーロッパ風ソフトブレッド」のコンセプトで人気を確立した。ソフトブレッドは100種近くあり、店内での焼き上げにこだわっている。パンの売上高は茶とほぼ同額に達する人気ぶりだ。ターゲットは都会の女性ホワイトカラー層で、ブランドイメージ、商品とパッケージ、店内の雰囲気まで、どれも女性の嗜好を重視。エルメスの照明デザイン担当企業に



「茶+歐風ソフトブレッド」のコンセプトで消費者の心をつかんだ「奈雪の茶」

ライティングを依頼、カップデザインも女性が手に持って自撮りしやすいサイズと形状に工夫している。

「音楽茶館」というコンセプトで差別化をしているのが、深圳発祥の「芭依珊813」だ。消費者に娯楽とレジャーの場所を提供したいとの考えから店舗面積を広く取っており、深圳の福田十畝地店を例にとると面積1500㎡、しかも24時間営業で店舗内外に座席が設けられ、大型TV14台、100インチ大型スクリーン2台を備え、高いステレオ効果で流行歌が流れている。

では、人気のビジュアルに共通する要素は何か？

(分析連携：BizCHINA編集長 石原達也)



蔣 佳玲

キャストコンサルティング
コンサルタント

1996年台湾大学政治学部国際関係学科卒業、97年米シラキュース大学広報修士課程終了。その後、台湾地区大手PRエージェンシー、台北101ショッピングモール、米系リアル大手メーカー等を経て、05年からキャストコンサルティングのマーケティングコンサルタント。

キャストコンサルティング(上海) 加施徳諮詢(上海)

■上海市浦東新区浦東南路528号
上海証券大厦北楼1404室
☎021-6321-3000
🌐http://www.cast-marketing.com/
✉service@cast-marketing.com

都市別マーケティングレポート



サイエンス&テクノロジー・ムードを差別化ポイントに打ち出す「inWE因味茶」。喫茶スペースの壁に設置された飲用水濾過機器が、独特のアクセントを生み出す

キャスト中国ビジネス「中国マーケティングEC会員コース」
会報誌『チャイナ・マーケット・インサイト』毎月発行

ご希望の方に会報誌サンプルを無料で送付。
お申し込みは下記サイトから。

<http://www.cast-marketing.com>

SNS上の口コミ消費“網紅経済”に支えられ、新タイプのティーハウス群が人気を集めている。口コミ人気を得るために重要なのが、SNS上で共有しやすい視覚的の魅力だ。「いいね！」を求めてシェアを繰り返す消費者を取り込むため、各店ともビジュアル創りに余念がない。では、何が消費者を“いいね！”集めに駆り立てているのか。まずは人気店のビジュアルから見ていこう。

アイデンティティを重ねる

網紅ティーハウスのはりしとなった「喜茶(HEYTEA)」は、2012年に広東省江門市で誕生した。90後の創業者が、同年代の消費者の好みに合わせた茶飲料の創出を志して起業し、お茶をお洒落なファーストフードに生まれ変わらせ

た。

一般のミルクティー専門店が低価格の原材料を使用しているのに対し、喜茶では河南、江西、台湾地区、さらにはインドなどの良質な茶葉を原料としており、新鮮な香りを保つためティーバッグは1回しか使用しない。ミルクやチーズも欧州や豪州からの輸入品。好奇

心旺盛な90後に合わせ、シーズンごとに新メニューを投入するなど、新鮮さを保つ努力も欠かさない。各店の月間売上高は一般的に100万元以上、立地によっては200万円に達している。

だが消費者の心をつかんだポイントは、メニューやサービスだけではない。商品のパッケージから内装まで、90後の自己イメージと重なる簡素・優雅・洗練・清涼なイメージで統一したことが、SNS上での共感を呼んだ。

これはティーハウスに限らず、SNS上の口コミ人気店“網紅店”

編集後記

今回の巻頭特集では、中国の自動車市場を取り上げました。

2017年、中国における自動車の生産及び販売台数はそれぞれ2901.5万台と2887.9万台に達し、9年連続で世界首位となりました。政府も多くのサポート政策を打出し、新エネルギー車、コネクテッドカー、自動運転など未来を牽引する領域の発展を全力で推進しています。

日常生活においても、緑色の新エネルギー車専用ナンバープレート車両が増えており、新エネルギー車やコネクテッドカーの普及を実感しています。上海、北京といった車両の購入や通行が制限されている都市では、ナンバープレートの取得が困難かつ高額なガソリン車をあきらめ、購入税の補助が得られ、かつ専用のナンバープレートが交付される新エネルギー車を購入する人が増えています。

また、今や中国人にとって欠かせない外出ツールである「滴滴」などの配車アプリも、車両の多くが新エネルギー車に切り替わりつつあります。上述の補助金やナンバープレートのほか、ガソリン代やメンテナンス費用も節約できるなどメリットは少なくありません。

上海の虹橋空港や、虹橋駅、浦東空港にはシェアカー「EVCARD」専用の広々とした駐車エリアができています。EVCARDが採用しているのも新エネルギー車。これらの商用車領域にも大量の新エネルギー車が投入され、中国の新エネルギー車市場の発展を後押ししています。

車載システムを搭載した車両も増えており、大型のカラータッチパネルはナビゲーションシステムやエンタメ、Wechatでのオンタイム通信機能のほか、音声操作や遠隔操作、車両の状態チェック、更にはAIの学習機能まで備え、スマート化が更に深化しています。2015年に公布された「中国製造2025」では、コネクテッドカーが十大重点発展領域の1つに掲げられました。百度 (Baidu)、アリババ、騰訊 (テンセント) も車載システム市場に積極的な投資を行っており、コネクテッドカー市場は飛躍的な成長段階を迎えているといえます。

自動運転に関しては、北京、上海などの9都市で関連法規が公布され、公道テスト用のナンバープレートも交付されました。广汽、一汽、長安汽車、小鹏汽車などのメーカーも自動運転車の量産計画を発表。中国における自動運転時代の到来は目前に迫っているようです。



大亀浩介

キャストコンサルティング取締役

1996年早稲田大学政治経済学部卒業。台湾のIT企業などを経て、2004年弁護士法人キャスト入所。2005年キャストコンサルティング入社、2007年取締役。会員制「キャスト中国ビジネス」事業を立ち上げたほか、在中国日系企業の事業戦略・運営の支援や中国マーケティングのコンサルティングを行う。著書に『中国ネットビジネス成功へのポイント』（日本経済新聞出版社）のほか、現在、日経MJ（流通新聞）でコラム「中国&アジア商売見聞録」（隔週掲載）、「月刊コンビニ」で中国のコンビニ事情を執筆。講演多数。



蔣佳玲

キャストコンサルティング(上海)有限公司
コンサルタント

1996年台湾大学政治学部国際関係学科卒業。

中国(台湾含む)でのマーケティング経験を15年以上有し、実務経験に基づいた日系企業の中国進出及びマーケティング・販売・プロモーション戦略と実行のコンサルティング業務を行なう。

現在、中国全土をカバーする日本語ビジネス情報誌「WheneverBizCHINA」に都市別マーケティングレポートを連載中。

◆ 著作権

本資料の著作権は出典が明記されているものを除き、原則、キャストコンサルティング株式会社に帰属します。いかなる目的であれ、本資料の一部または全部について、無断で、いかなる方法においても複写、複製、引用、転載、翻訳、貸与等を行うことを禁止します。

◆ 免責

本資料記載の情報は、キャストコンサルティング株式会社が信頼できると考える各方面から取得しておりますが、その内容の正確性、信頼性、完全性を保証するものではありません。キャストコンサルティング株式会社は当該情報に起因して発生した損害については、その内容如何にかかわらずいっさい責任を負いません。この情報は執筆時の情報に基づいておりますので、今後登場する法令、司法解釈等により、記述内容と異なる結果が導かれる可能性があることに十分ご注意ください。また、本資料に記載された内容は予告無しに変更されることもあります。

「キャスト中国ビジネス」中国マーケティング・EC会員コース

中国の市場・業界・商習慣を徹底調査&研究

チャイナ・マーケット・インサイト News Letter 2018 SEPTEMBER (vol.57) 2018年9月発行

発行:キャストコンサルティング株式会社

〒105-6234 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー34階

TEL:03-5405-7860 FAX:03-5405-3308 メール:service@cast-marketing.com

© 2018 CAST Consulting Co., Ltd. All Rights Reserved

中国市場攻略は“情報力”がすべてです!

消費市場としてますます世界中から注目を集める中国。日本企業もモノづくりの拠点から販売先としての市場として取り組まなければならないようになってきました。しかし、いざ中国で販売するとすると、どこで?だれに?どうやって?販売していくかわからないまま悪戦苦闘しているのではないのでしょうか?そんな日本企業を尻目に、欧米、台湾・韓国、ローカル系企業は売上を着実に伸ばしています。この差は一体何なのでしょう?

それは「**情報力**」です。単なる情報の量だけでなく、真に必要な情報を収集、把握、分析してこそ、はじめて具体的な戦略と行動プランが確立できるといえます。

キャスト中国マーケティング事業部では、現地調査会社と協働しながら、これまで数多くの調査案件に携わってまいりました。クライアントからの「これはさすがに無理かも?」といった情報や資料なども収集してきた実績がございます。ぜひお気軽にご相談・お問い合わせください。

調査業務内容

業界調査

自動車、流通、保険など各業界のリーディング企業で働く経営層やマネージャーなどの関係者にインタビューを実施し、各社の生産・販売状況及び目標、取引先、仕入れ・販売価格、コスト構造、流通販売網、人事・労務体系など内部情報をヒアリングし、業界全体の実態を把握できます。

実績紹介

- 家電** 総合家電メーカー 競合社のウェブ・CRM戦略調査
- 小売** 高級腕時計販売会社 中国高級輸入腕時計マーケット調査
- 化学** 農業用フィルムメーカー 中国農業用フィルム及びパイプハウス調査
- 化学** マスタバッチメーカー 中国マスタバッチ競合社・原料サプライヤー実態調査
- 化学** 大気浄化装置メーカー 中国大気浄化装置事業展開の可能性調査
- 金融** 損保会社 火災保険に関する競合社ヒアリング調査
- 金融** 損保会社 団体保険制度に関する競合社ヒアリング調査
- 金融** 損保会社 商業医療保険に関する競合社ヒアリング調査
- 金融** 損保会社 家電延長保険に関する競合社ヒアリング調査
- 金融** 損保会社 海外旅行保険に関する競合社ヒアリング調査
- 素材** 電池負極材メーカー 電池負極材競合社調査

企業調査

競合他社、取引先、出資候補先、不審業者など特定の企業にスポットを当て、工商資料等に基づく登記・財務状況の把握に加え、内部関係者からのヒアリングを通して、社内外の人脈・人間関係、資産状況、取引先、人事制度、営業計画などで要望に応じて調査可能です。

実績紹介

- IT** 自動車部品システム開発会社 買収・提携相手企業(中国最大自動車部品データベース会社)調査
- 食品** 健康食品メーカー 競合社の広告費の会計上の処理方式調査
- 食品** 食品加工会社 提携会社及び責任者の資金フロー調査
- 電機** 重電メーカー 投資対象会社の実態調査
- 物流** 物流会社 中国法人の個人株主に関する素行調査
- 出版** 雑誌出版社 提携会社財務実態調査
- 金融** 消費者金融ローン会社 買収対象会社の投資状況調査

消費者調査

貴社の商品やサービスが中国市場でどれだけ受け入れられるか?その可能性は?どうやって販売?などの疑問を探るため、実際に各地でターゲット消費者を集めてグループインタビューを行います。上海、北京、広州だけでなく、成都や西安など内陸や地方都市でも対応できます。

実績紹介

- 観光** 高級リゾート会社 日本観光ニーズ調査
- 航空** 航空会社 中国エアライン・ブランド認知調査
- 化粧品** スキンケア会社 化粧品・健康食品市場及び商品テスト調査
- メディア** 広告代理店 女性向け情報発信サイトに対するニーズ調査
- メディア** 広告代理店 女性向け情報発信サイトターゲット消費者調査及びコンセプトテスト
- メディア** 広告代理店 女性向け情報発信サイト使用感覚テスト
- 出版** ヤングファッション誌出版社 子供向けファッション雑誌ターゲット消費者調査
- 金融** 損保会社 中国火災・医療保険リテールマーケット消費者ニーズ調査

営業先・代理店候補リスト作成

営業先や代理店などの候補となる企業を、地域や売上規模などの選択基準に基づきリストアップします。日本企業との取引実績や希望などを電話ヒアリングにより絞り込むことも可能です。

実績紹介

- 電子** タッチパネルメーカー 透明タッチパネル代理店ロングリスト作成
- 物流** 商社 提携先・M&A可能対象ロングリスト作成

メディアクリッピング

中国内1,500の主要な新聞・雑誌、500のテレビ及びウェブサイト・BBS・ブログ等から設定したキーワードに関連する記事をクリッピングし、定期的(毎日or毎週)にお届けします。必要に応じて、タイトルや記事全文、サマリーなどの日本語翻訳も対応可能です。

実績紹介

- 食品** 健康食品メーカー 中国食品・通信販売に関するニュースクリッピング



まずはお気軽にお問い合わせください。

キャストコンサルティング

東京: 03-5405-7860 (代) MAIL: service@cast-marketing.com

中国マーケティング・EC会員コース

中国市場徹底攻略! 専門性の高い情報とコンサルティングの融合による、スピーディで精緻なビジネスサポートを提供いたします。

当会員コースにご入会いただくと…

1 中国現地生情報をリアルタイムにレポート!
会報誌「チャイナ・マーケット・インサイト」が毎月届く!!

毎月20日発行、ウェブコンテンツを冊子形式に編集し、お手元に郵送いたします。(1・2月と7・8月は合併号となります)



2 個別調査案件レベルの量および質のコンテンツほか
精度の高い情報の数々が、24時間オンラインで閲覧可能!!

クライアント様から、個別に受注する調査案件と同等レベルのクオリティです。

3 コンサルタントがビジネス相談に対応!! (メール・TEL)

中国での調査・販売に関する各種相談に電話またはメールでコンサルタントが対応いたします。
また、業界・市場の実態や販売店リストなども、デスクリサーチ(ネット上での情報収集に限る)の範囲内であれば会費内で対応可。
(内容によっては、別途お見積もりを提示する場合がございます)



この内容で、わずか月々50,000円/4,000円(税別)!!

ご契約は日本or中国いずれも可能。ご契約期間は1年単位で承っております。
・その他ご契約条件、利用規約等については、弊社ホームページご入会案内をご覧ください。

「それが知りたかった!」にお応えする、キャスト独自のコンテンツラインナップ

中国マーケティング専門のコンサルタントが現地視察・取材を敢行!

- ・中国沿岸部から内陸の三・四線級都市まで網羅した「都市別レポート」
- ・各都市の80后・90後の家庭を訪問調査し消費動向を見据える「消費者研究」
- ・自動車、流通、食品など各業界のリーディング企業から読み解く「業界動向」
- ・中国で活躍する市場部マネージャー級人材への取材から把握する「実務の視点」
- ・統計データから中国市場・業界のいまと今後を知る「数字で見る中国」など

中国の市場・消費者・流通・小売・物流・都市・業界などの情報が盛りだくさん!!

マーケティングレポート 一例

- ・香港系大手ドラッグストア「ワトソンズ(屈臣氏)」徹底研究
- ・外資系大手スーパー「カルフルー」徹底研究
- ・大潤発に学ぶ中国市場攻略の方程式
- ・中国ネット通販最大手「淘宝」トップ店舗徹底研究
- ・ブルガリとセリーヌを徹底分析! 中国奢侈品市場
- ・台湾系の85度C、中国で躍進のポイント など

都市別レポート 一例

上海・北京・広州・成都・重慶・瀋陽・青島・ハルビン・杭州・寧波・蘇州・南京・天津・長沙・無錫・湖州・西安・武漢・鄭州・合肥・温州 など
掲載都市は随時更新中!!



キャストコンサルティング株式会社 会員サービス事務局 TEL: 03-5405-7860

MAIL: service@cast-marketing.com 〒105-6234 東京都港区愛宕2-5-1 愛宕グリーンヒルズMORIタワー34階